

採択理由

プログラム名：先端融合領域イノベーション創出拠点の形成

課題名： 高次生体イメージング先端テクノハブ

代表者名： 尾池 和夫

所属機関名： 京都大学

コメント

本提案は、基礎医科学と高次生体イメージングの融合領域として、概ね 10 年～15 年後にイノベーションを起こし、革新的な技術開発並びに新産業の創出などが期待されるものと評価された。

尚、委員から、以下の様な懸念も出されているので、考慮してプロジェクトを進めて頂きたい。

- ・GE、フィリップス、ジーメンズでイメージング機器の 80 パーセントの世界シェアが占められている現状に対し、2010 年に各分野でのシェア何パーセントを目標とするか、技術目標（分解能、可視化力、ハンドリング容易性 etc）を明らかにして挑戦されたい。

- ・さらに分子プローブの開発がかぎとなると思われるが、独占 3 大メーカーも同じ方向の研究を進めているため、彼らと差別化するためには分子プローブの性能、機能などの具体的な技術イノベーションを、より明確に見据えつつ拠点構築を進めていく必要が有るとされる。

- ・また、協働機関が世界 3 大メーカーより優位に立つためには、学内の医師のみならず、より広範な潜在的ユーザからの情報を反映させるとともに、本課題の推進に合わせて、世界でのマーケティングの検討も肝要になるとされる。